

「社会科における「世界や外国についての学習内容」に関するアンケート」結果報告

2025年7月から8月末にかけて本委員会が実施したウェブアンケートには、多くの皆様にご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

本レポートでは、アンケート各設問の集計結果についてご報告いたします。集計と分析の結果については、日本地理学会秋季学術大会シンポジウムIV(弘前大学、2025年9月21日、概要は「地理学評論」に掲載予定)にて報告したほか、日本社会科教育学会全国研究大会(茨城大学、2025年11月16日)でも発表を行いました。なお、クロス集計や自由記述を含めた詳細な分析等、今後定量・定性的な両側面からさらに分析を進め、改めて報告いたします。

2025年1月

日本地理学会地理教育専門委員会
小学校における世界の学習アンケート担当

結果報告(第1報)

社会科における「世界や外国についての学習内容」に関するアンケート

(対象: 小学校教員、小学校社会科に関心のある中学校教員等の皆様)

本アンケートでは、現行の小学校社会科の内容構成や時間数にとらわれず、「これから的小学校社会科で子どもたちに何を学んでほしいか」という視点から、先生方の自由な発想でのご意見をお聞かせいただきたいと考えております。選択形式の質問へのご回答に加えて、自由記述の質問についても、ご記入いただければ幸いです。

〔調査概要〕

□目的: 小学校社会科における「世界や外国」に関する学習内容の適切性や課題を教育関係者から意見を収集して把握し、今後の教育内容の改善や充実に役立てる。

□実施主体: 日本地理学会地理教育専門委員会

□実施時期: 2025年7~8月

□調査対象: 全国の小学校社会科教員

※日本地理学会地理教育専門委員会HP、教科書会社研究会情報HP等に掲示するとともに、地理教育専門委員、関係者を通じて協力を依頼。

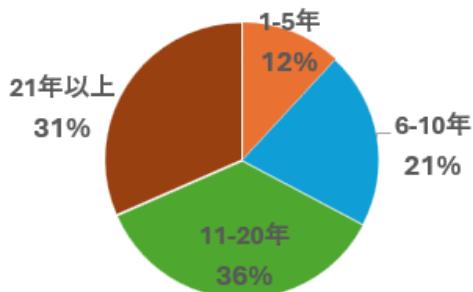
□調査方法: Google フォームを使った web 調査

〔回答概況〕

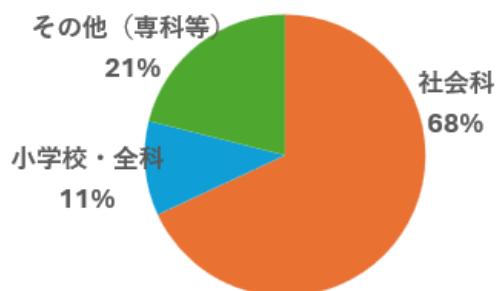
□回答総数: 22 都道府県から 169 名の回答

□回答者の属性：教職経験年数・専門・主要担当学年

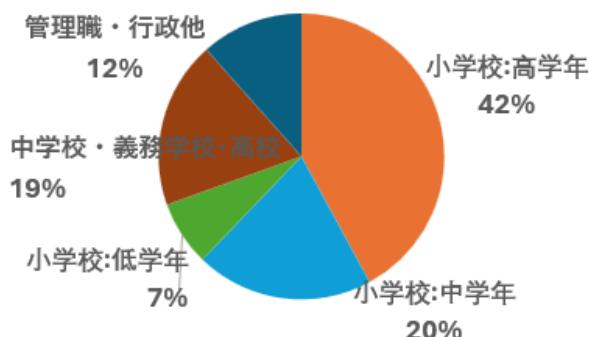
※教職経験年数：N=168



※専門：N=166



※主要担当学年等：N=164



属性間のクロス集計：N=160

年数/専門	社会科	小学校・全科	その他	合計
1~5 年	10 (50.0%)	5 (25.0%)	5 (25.0%)	20 (100%)
6~10 年	27 (77.1%)	2 (5.7%)	6 (17.1%)	35 (100%)
11~20 年	38 (66.7%)	5 (8.8%)	14 (24.6%)	57 (100%)
21 年以上	35 (72.9%)	5 (10.4%)	8 (16.7%)	48 (100%)

※回答者の約 3 分の 2 は社会科を専門とする教職経験 11 年以上の経験豊富な教員であり、主に小学校高学年や中等教育を担当しています。

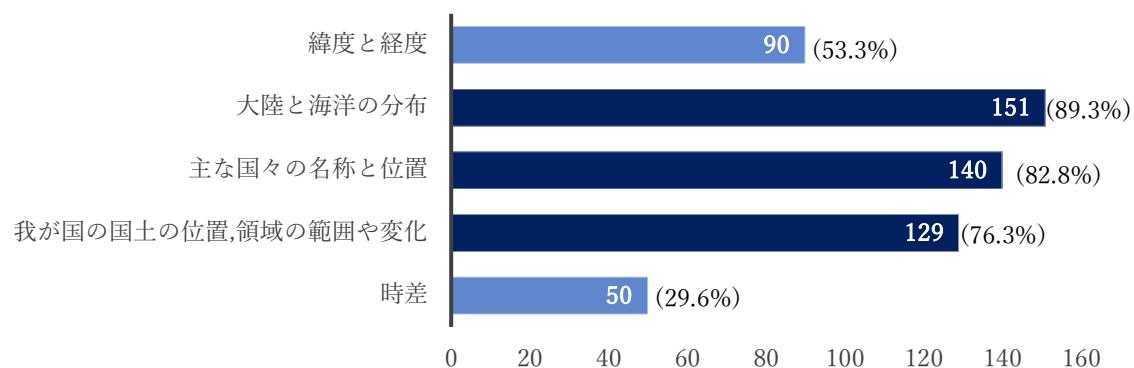
本報告では、選択肢回答の集計結果を中心に報告します。調査では、多くの先生方から貴重な自由記述をいただき、深い洞察が得られました。選択肢回答の「その他」においても丁寧な記述を多数お寄せいただきました。これらの自由記述につきましては、内容を詳細に分析したうえで、改めて報告させていただく予定です。まずは集計結果のご報告のみとなりますこと、ご了承ください。

I. 小学校社会科における世界に関する学習について

1. 世界と日本の地域構成（質問1・2）

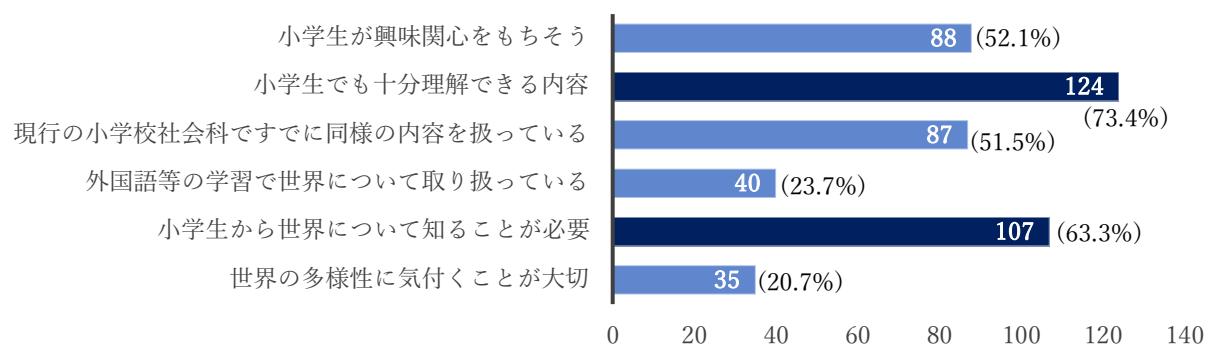
中学校地理的分野A「世界と日本の地域構成」に該当する項目の導入可能性（子どもたちにとって適切である、子どもたちが理解・習得できる）についての集計結果です。

【質問1：項目別集計結果（複数回答）】 N=169



※「大陸と海洋」や「国々の位置」など具象的・視覚的に把握可能な世界の項目は8～9割と、「我が国の国土」に関する項目よりも高い支持を得ました。

【質問2：導入を適切・可能とする主な理由（複数回答）】 N=169



【参考：質問1（項目）と質問2（理由）のクロス集計（複数回答）】

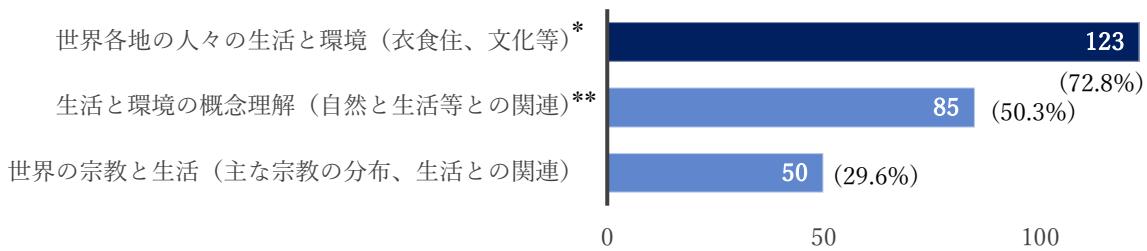
	興味関心	理解可能	既習内容	外国語等	必要性	多様性
緯度と経度	49	68	52	23	70	25
大陸と海洋の分布	78	114	80	38	100	33
主な国々の名称と位置	77	105	73	37	93	33
我が国の国土の位置・領域	63	95	74	30	90	32
時差	27	36	25	17	40	17

※本集計は複数回答形式であるため項目と理由が1対1で対応しているとは限りません。

2. 世界の諸地域：州別学習前の総論的内容（質問3・4）

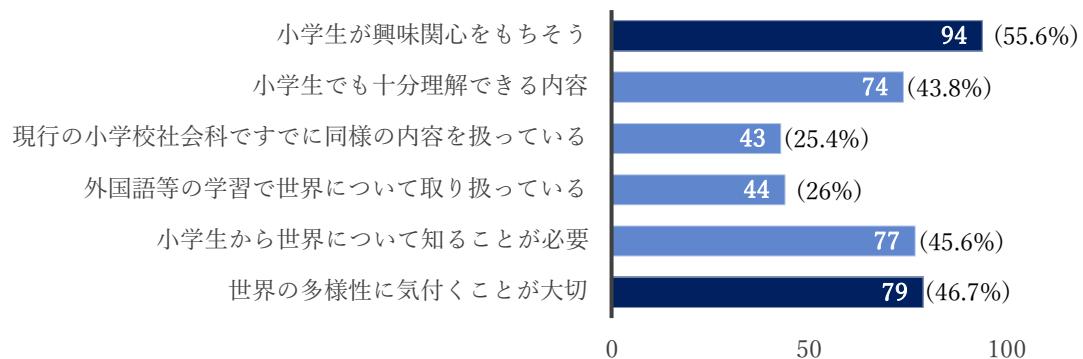
中学校地理的分野B「世界の様々な地域」の世界の諸地域学習の前に位置づく（1）「世界各地の人々の生活と環境」に該当する項目の導入可能性（子どもたちにとって適切である、子どもたちが理解・習得できる）についての集計結果です。

【質問3：項目別集計結果（複数回答）】N=169



※学習指導要領の項目名「世界各地の人々の生活と環境」*と、身につけるべき知識として示された内容**「生活と環境の概念理解」との間で、回答数に明らかな差が見られました。「実態」の理解については高い合意が得られる一方で、「環境と生活の相互作用」といった「概念」理解にまで求めることを適切とする回答は2割以上減少しています。

【質問4：導入を適切・可能とする主な理由（複数回答）】N=169

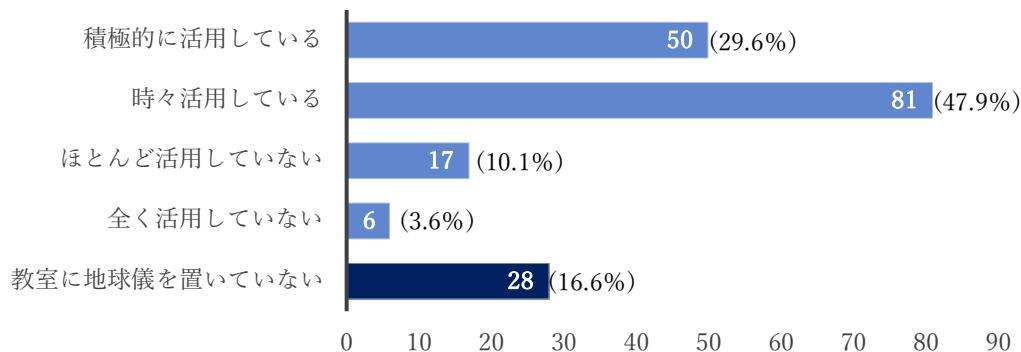


※質問1・2「地域構成」では「理解可能」や「必要性」が際だって高い割合を示しましたが、質問3・4では対照的に「興味関心」と「多様性」が上位にきています。とくに「多様性への気付き」は質問1と比較して2倍以上の回答があります。

【参考：質問3（項目）と質問4（理由）のクロス集計（複数回答）】N=169

	興味関心	理解可能	既習内容	外国語等	必要性	多様性
世界各地の人々の生活と環境	78	61	35	38	63	62
生活と環境の概念理解	58	47	29	31	55	52
世界の宗教と生活	28	25	13	15	34	33

【質問5：世界に関する学習における地球儀活用状況（複数回答可）】N=169

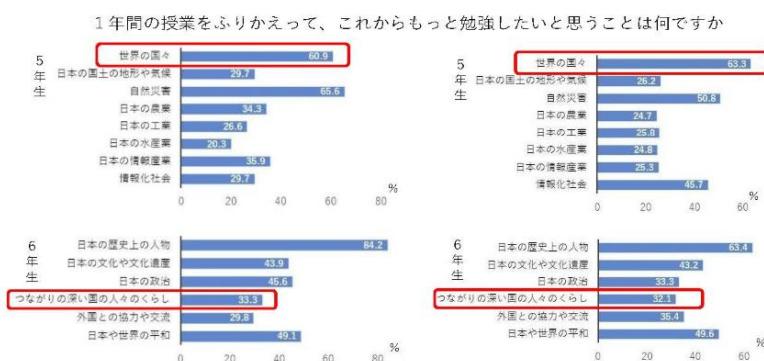


【参考：地球儀の活用状況の3項目クロス集計】

学年区分	専門教科	1.積極的に活用	2.時々活用	3.殆ど・全く活用せず	4.教室に未設置
小学校：低学年		2 (16.7%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	4 (33.3%)
小学校：	社会科	6 (26.1%)	11 (47.8%)	3 (13.0%)	3 (13.0%)
	社会科以外	2 (20.0%)	5 (50.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)
小学校：	社会科	17 (38.6%)	23 (52.3%)	2 (4.5%)	2 (4.5%)
	社会科以外	9 (36.0%)	13 (52.0%)	1 (4.0%)	2 (8.0%)
中学校・義務教育学校		7 (22.6%)	15 (48.4%)	3 (9.7%)	6 (19.4%)

※ 所属について管理職や教育委員会等と回答された方を除いて再集計。小学校高学年では、専門に関わらず9割以上が地球儀を活用しています。一方、中学校段階では地球儀不設置率が約2割にのぼります。学習内容が抽象的・概念的になることやデジタルツールの使用で地球儀の必要性が薄れ、小学校高学年で高まった触れて球体を体感できる地球儀の活用が、中学校段階に十分引き継がれていない可能性も考えられます。

II. 世界や外国についての学習に対する児童の学習意欲について



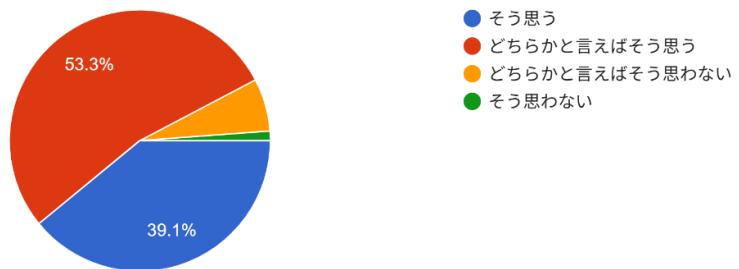
図A：令和7年3月実施の児童アンケート結果

図B：平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査における結果（文科省調査結果データより作成）

平成 24 年度小学校学習指導要領実施状況調査では、世界・外国に関する単元への学習意欲が「5 年生で高く、6 年生で低い」ことが明らかになっています(図 B)。令和 7 年 3 月に茨城県内の小学校 1 校で実施した児童アンケートでも同じ傾向(図 A)が示されました。これらのアンケート結果が先生方の日頃の指導実感とどの程度一致するかを調査しました。

【質問 6：5 年「世界の国々」への児童の学習意欲が高い傾向に対する教員の実感】

169 件の回答

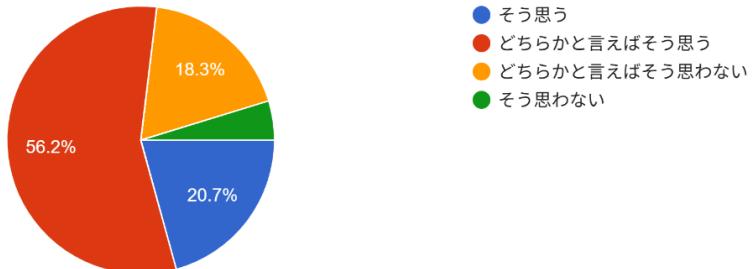


※肯定的な実感をもつ教員が 9 割以上に達し、5 年生のこの学習への「意欲の高さ」は、現場教員の実感とほぼ一致していることがわかります。

【質問 7：理由（自由記述）】115 回答 集計中

【質問 8：6 年「つながりが深い国の人々の暮らし」への児童の学習意欲が低い傾向に対する教員の実感】

169 件の回答



※8 割近くの教員が 6 年生のこの学習への「意欲の低さ」を実感しています。5 年生の結果と比較すると、「そう思わない」と考える教員の割合がやや高く、現場によって反応に差があることがうかがえます。

【質問 9：理由（自由記述）】115 回答 集計中

【質問 10：世界や外国に関する学習内容・指導や課題等の自由記述】102 回答 集計中

【小括】

本報告では、小学校社会科における「世界や外国についての学習内容」についての教員の皆様の多様なご意見と現場の実態を集計し、若干の分析を示しました。主な結果として、児童の興味関心を引きやすい具体的な事象（国々の位置や世界の環境や生活の様子など）は導入への支持が高い一方、概念的・理論的な内容（環境と生活との関わり、緯度経度や時差、宗教など）については慎重な意見も見られました。また、地球儀の活用状況や現行の世界に関する学習への学年ごとの児童の学習意欲の違いなど、現場の工夫や課題も明らかになりました。

今後は、自由記述やクロス集計の詳細分析を進め、さらに内容を深めた報告を行う予定です。

最後に、本アンケート調査にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。学習指導要領改訂に向けて、今後は、子どもたちの実態に即した先駆的・実験的な実践や試行についても、積極的なご意見やご報告をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

日本地理学会地理教育専門委員会
小学校における世界の学習アンケート担当